



NOSAⅠ宮城
仙台市青葉区上杉
1丁目8番地10号
〒980-0011
電話022(225)6701
http://www.nosamiyagi.or.jp/



今週の記念日
6月7日は緑内障を考える日
6(りよく)7(ない)の語呂
合わせから、緑内障による失明を
なくする「緑内障フレンド・ネット
ワーク」が制定しました。

岩沼市 吉田 俊美さん

公正・適切心掛け

共済部長

【岩沼市】「組合員からの質問や疑問に応えられるよう、職員などからNOSAⅠ制度の説明を直接受けながら理解に努めている」と話す、岩沼市の吉田俊美さん(63)。以前は総代と損害評価員に就き、2008(平成20)年からは共済部長を務めている。

牛22頭(搾乳牛11頭、育成牛・子牛11頭)を飼養。牛ふん堆肥を施用した良食味米生産に力を入れるほか、乳牛には時間を決めてクラシック音楽を聞かせ、牛舎脇に花を植えてストレス軽減を図っている。

震災以降、大区圃場整備などで農業環境が変わり、法人などの設立や後継者不足で組合員数が減少している。被災地区の集落再編が遅れているように感じているという吉田さんは、私たちの世代が次の農業を担う後継者にきちんとバトンをつなぐ体制を築いていきたいと話す。

▽共済部長歴10年
(高橋康)



「NOSAⅠ制度の理解に努めている」と話す吉田さん

おらほの輝く

NOSAⅠ関係者

Part 1

「地域の農業者とNOSAⅠをつなぐ存在」として重要なパイプ役を担っている総代や共済部長、損害評価会、損害評価員といった基礎組織者。NOSAⅠの事業運営を支える大事な存在であるとともに、地域でも中心的な立場で活躍している。豊かな宮城の農業を切り拓く代表者のNOSAⅠとの関わりに注目した。

農家とNOSAⅠをつなぎ
農業を次世代につなげる

加美町 千葉 利夫さん

早期再建を後押し

損害評価会委員

【加美町】加美町の千葉利夫さん(65)は2015(平成27)年から損害評価会委員に就任。災害時に農家の被害申告に応じ、損害評価をより重要性や、共済金の支払対象となる共済減収量を認定する責務を感じている。「これまで共済部長や損害評価員を長年務めてきたが、これからは損害評価会委員として農家に共済金が早期に支払われるよう、NOSAⅠに働きかける役割を果たしていきたい」と話す。

千葉さんは、水稲5・7畝受託(分含)を作付けするほか、畑2畝でネギ、ハクサイ、サボイキャベツなどを栽培している。「年々変わる気候に合わせて栽培する品種、圃場を複数用意しリスク分散を図っている。経営規模が増えるはとじっかりとした経営力を身に付けたい」と話す。

「農業は地域保全。農家はその地域や土地の守り人だと思ってる。農家が減少する中で農業の共同化が進んでいるが、後継者育成にも力を入れたい」と千葉さん。地区の集落営農をまと



「災害が起きたときにはNOSAⅠと共に農家を支えたい」と千葉さん

めるための組織づくり、後継者の育成、魅力ある農業への取り組みを常に考えている。

千葉さんは「NOSAⅠを通じて、農家のため、地域のため

仙台市 針生 孝充さん

農家の声を届ける

総代



「農家の声をNOSAⅠ制度に反映できれば」と針生さん

【仙台市】「地域の農家とNOSAⅠをつなぐ重責を担っている」と自覚して取り組んでいると話す、仙台市の針生孝充さん(64)。以前損害評価員を務めていたが、県内1組合とのか、畑1・6畝でホウレンソウやタイコン、エダマメなど30品

目を超える野菜を栽培。地域で組織する「日辺実践組合」の代表も務め、14畝で大豆と麦の二毛作に取り組んでいる。

「収入保険制度の導入が決定し、大きな変革の時期を迎える。損失の補填に何を選択すればいいのか、農家自身も自分の営農スタイルを見つめ直すとき」と針生さん。自助努力を重ねたうえでNOSAⅠにもより一層の制度充実を期待する。

針生さんは「就農した息子世代が農業経営の中心になるとき、より良い形でつないでいける基盤を固めたい」とし、堅実に農業を営んでいる。

「NOSAⅠが農家にとってより身近で、なくてはならない存在だと思ってもらえるよう手助けしていきたい」と針生さんは話す。

▽総代歴2年
(櫻井)



「地域の被害に素早く対応したい」と話す川村さん

蔵王町 川村 富士男さん

見回り欠かさず

共済部長、地区事業推進協議会会長

【蔵王町】「強風が吹けば地区を見回りし、組合員が加入するハウスに被害があればNOSAⅠに連絡するよう促している」と話す、蔵王町の川村富士男さん(65)。加入推進やとりま

とめ、広報紙などの配布にとどまらず、担当地区の組合員の加入状況を把握したうえで被害申告をサポートしている。「何かあったときの備えに、NOSAⅠ

Iに加入することを勧めていきたい」と話す。

川村さんは、水稲20畝作付けするほか、露地20畝でキュウリ、ハウス6棟(545坪)で葉物野菜を栽培。ハウスを所有する中でNOSAⅠ制度の重要性を感じてきた。

「地区の人から『被害があつたときにNOSAⅠの職員がすぐに来てくれ、ハウスの損害評

価をしていった』と喜んでもらい、共済部長をしていて良かったと思った」と川村さん。地区の農家経営を支える手助けになるよう加入推進するほか、素早い対応を心掛けている。

農作業の合間には農家同士で「コミュニケーションをとり、さまざまな情報の共有化を図っている。川村さんは「これからも見回りやコミュニケーションをとることを忘れず、地域とNOSAⅠをつないでいきたい」と話す。

▽共済部長歴24年、地区事業推進協議会会長歴5年
(本郷)